資料　3

認知症初期集中支援推進事業
（認知症初期集中支援チーム）
実績集計
（令和4年4月1日～令和5年3月31日報告分）

1. 各区　チーム訪問支援対象者数　実績
2. 各区　月別　チーム訪問支援対象者数
3. 全市集計　チーム　性別・世帯・年齢階級
4. 全市集計　チーム　相談経路・情報媒体
5. 全市集計　チーム終了ケース分析　主治医・サービス・DASC
6. 全市集計　チーム終了ケース分析　介護度・診断
7. 全市集計　チーム終了ケース分析　相談時期　支援の理解
8. 全市集計　チーム終了ケース分析　拒否の有無　終了後

1. 各区　訪問支援対象者数　実績
（令和4年4月1日～令和5年3月31日報告分）

表-1　　（人）

年度	北区	都島区	福島区	此花区	西淀川区	淀川区	東淀川区	旭区	中央区	西区	港区	大正区	天王寺区	浪速区	東成区	生野区	城東区	鶴見区	阿倍野区	住之江区	住吉区	東住吉区	平野区	西成区	総計
2021終了	14	4	11	18	7	14	21	14	9	8	30	12	16	13	9	20	38	6	14	16	21	7	11	10	343
2021対象外	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4
2021 計	14	4	11	20	7	14	21	15	9	8	30	12	16	13	9	20	38	6	14	17	21	7	11	10	**347**
2022継続	14	2	8	12	22	6	11	11	13	11	28	10	9	16	15	13	26	13	17	12	15	25	25	14	348
2022終了	49	25	33	35	25	24	19	23	17	29	34	33	21	19	76	44	44	24	25	33	57	36	35	26	786
2022対象外	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	2	0	0	1	10
2022 計	63	27	41	50	47	30	30	34	30	40	62	43	30	35	92	57	70	37	43	47	74	61	60	41	**1,144**
稼働総計	77	31	52	70	54	44	51	49	39	48	92	55	46	48	101	77	108	43	57	64	95	68	71	51	1,491
2022訪問支援対象者計	63	27	41	47	47	30	30	34	30	40	62	43	30	35	91	57	70	37	42	45	72	61	60	40	**1,134**

※「対象外」は、対象者情報を把握したが、アセスメント等を実施した結果、初期集中支援の対象とはならないものと、チーム員会議で判断したもの。（例：すでに認知症にかかる医療、介護サービス両方を受けていた場合など）
※年度内以前の終了ケース(モニタリングのみ)を除く

図-1

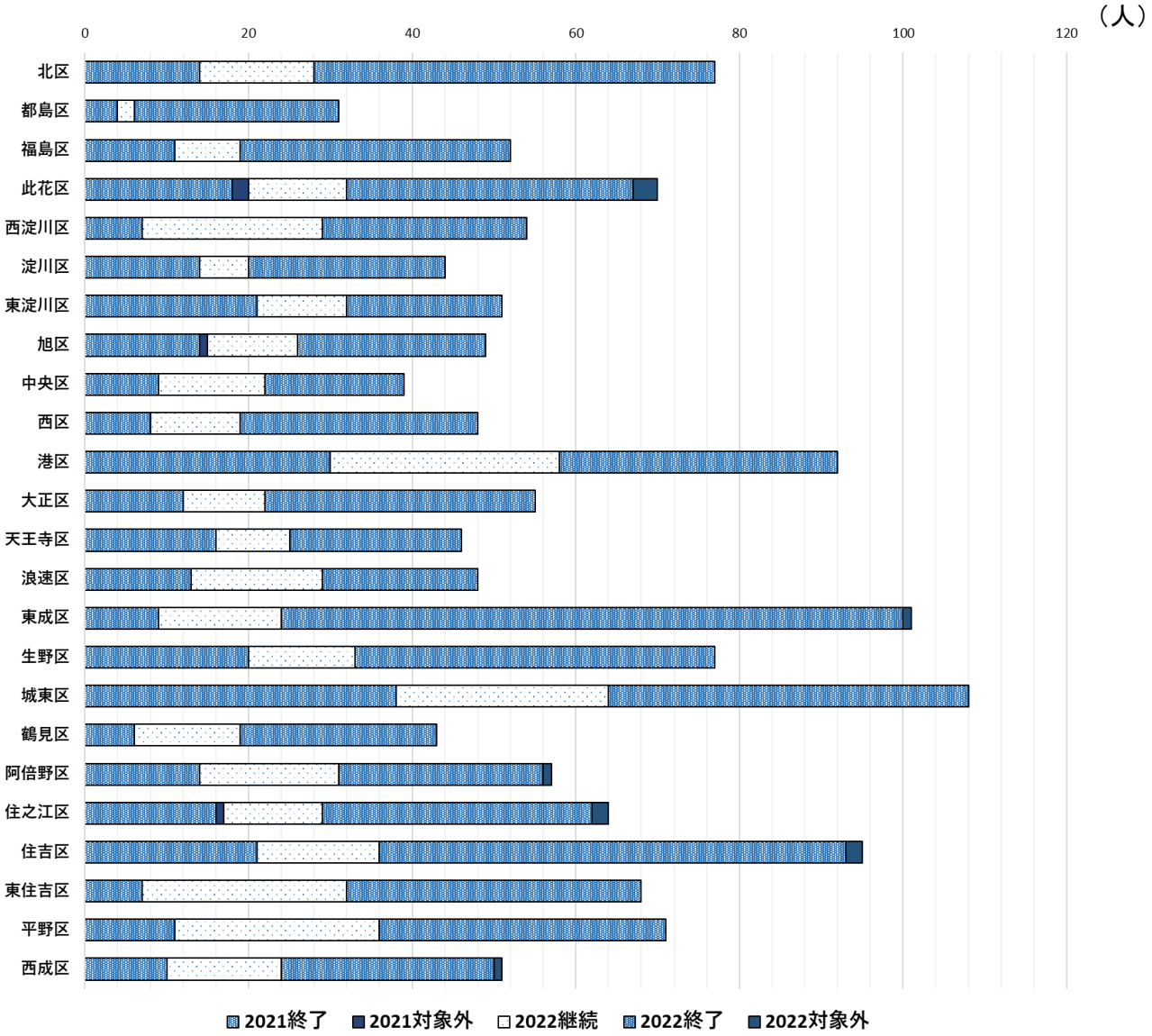


表-1・図-1　R4の新規支援対象者数は1,134人でR3の1,177人より43人の減少となっている。
また、R3からの継続支援を含めた稼働総数は、R4は1,491人でR3の1,834人より343人の減少となっている。

2. 各区月別　訪問支援対象者数
（令和4年4月1日～令和5年3月31日把握分　対象外を除く）

（人）

表-2

区名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計	月平均
北区	4	7	4	3	6	2	8	7	6	6	5	5	63	5.3
都島区	1	2	2	4	5	4	4	0	2	1	1	1	27	2.3
福島区	5	2	7	1	6	4	1	4	3	2	5	1	41	3.4
此花区	2	5	3	5	3	4	5	7	4	4	2	3	47	3.9
西淀川区	5	2	2	3	2	4	4	2	7	6	8	2	47	3.9
淀川区	0	4	3	1	5	2	5	3	2	1	1	3	30	2.5
東淀川区	4	4	2	1	1	3	2	5	1	4	1	2	30	2.5
旭区	2	2	6	3	1	2	3	5	3	3	1	3	34	2.8
北エリア計	23	28	29	21	29	25	32	33	28	27	24	20	319	26.6
中央区	4	1	2	3	3	2	3	1	1	3	4	3	30	2.5
西区	1	2	3	4	6	3	4	3	2	4	5	3	40	3.3
港区	6	4	7	2	10	2	2	6	5	6	6	6	62	5.2
大正区	4	0	2	4	3	4	7	4	3	9	2	1	43	3.6
天王寺区	3	0	1	4	5	4	2	1	2	2	2	4	30	2.5
浪速区	5	0	4	2	2	1	3	5	4	3	5	1	35	2.9
東成区	7	4	9	6	5	12	4	11	7	11	5	10	91	7.6
生野区	4	7	9	3	5	5	3	5	3	2	5	6	57	4.8
城東区	8	5	6	7	2	6	3	6	5	10	4	8	70	5.8
鶴見区	3	5	7	1	3	2	3	1	3	3	4	2	37	3.1
中央エリア計	45	28	50	36	44	41	34	43	35	53	42	44	495	41.3
阿倍野区	5	5	3	3	3	5	5	1	4	2	4	2	42	3.5
住之江区	5	3	3	2	9	1	6	6	1	2	4	3	45	3.8
住吉区	5	5	7	5	5	5	9	8	3	3	4	13	72	6.0
東住吉区	3	2	4	8	5	7	5	4	5	4	5	9	61	5.1
平野区	7	5	7	3	5	4	8	1	4	3	7	6	60	5.0
西成区	0	3	3	7	3	2	3	4	1	5	2	7	40	3.3
南エリア計	25	23	27	28	30	24	36	24	18	19	26	40	320	26.7
総計	93	79	106	85	103	90	102	100	81	99	92	104	**1,134**	**94.5**

図-2

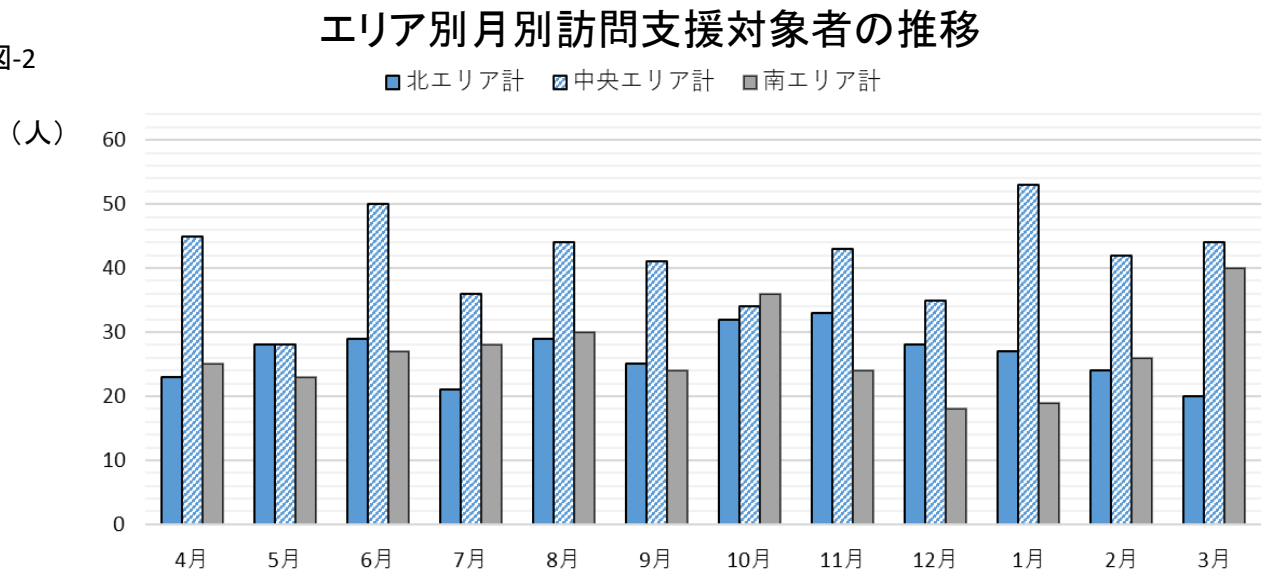
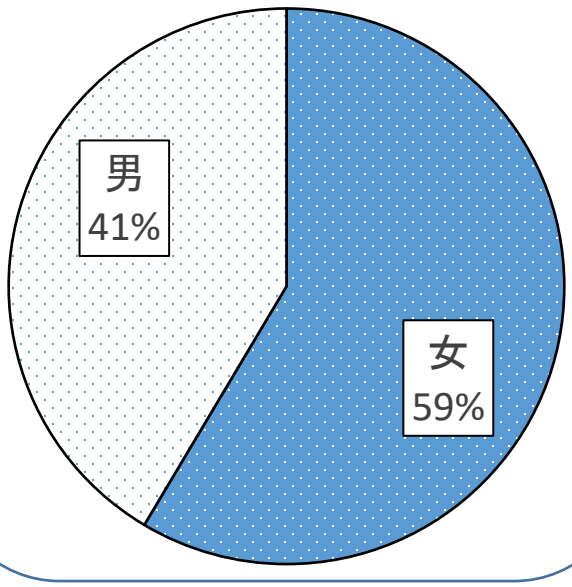


表-2　R4全市の月平均支援対象者数は94.5人。最も多い月は6月の106人で最も少ない月は12月の81人となっている。 図-2　エリア別では、支援対象者数が最も多い月は北は11月、中央は1月、南は3月であり、最も少ない月は北は3月、中央は5月、南は12月となっている。

3. 全市集計　性別・世帯・年齢階級
（令和4年4月1日～令和5年3月31日把握分　対象外を除く）　N=1134

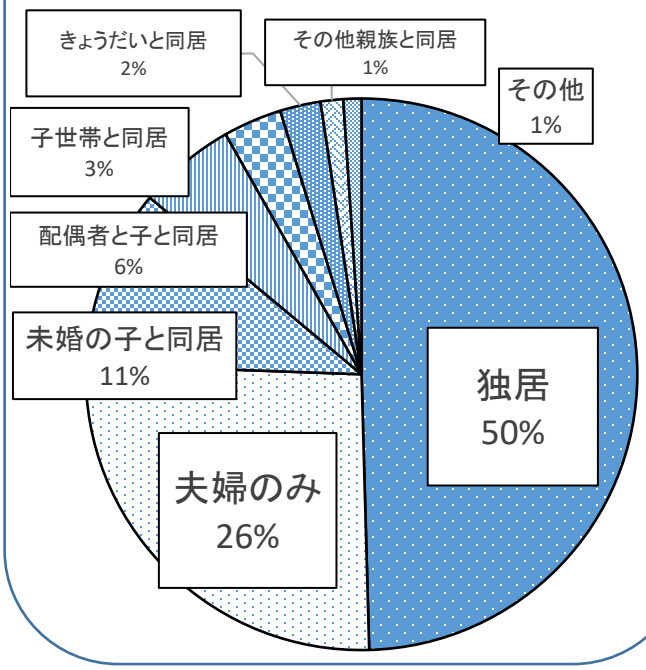
性別

図-3



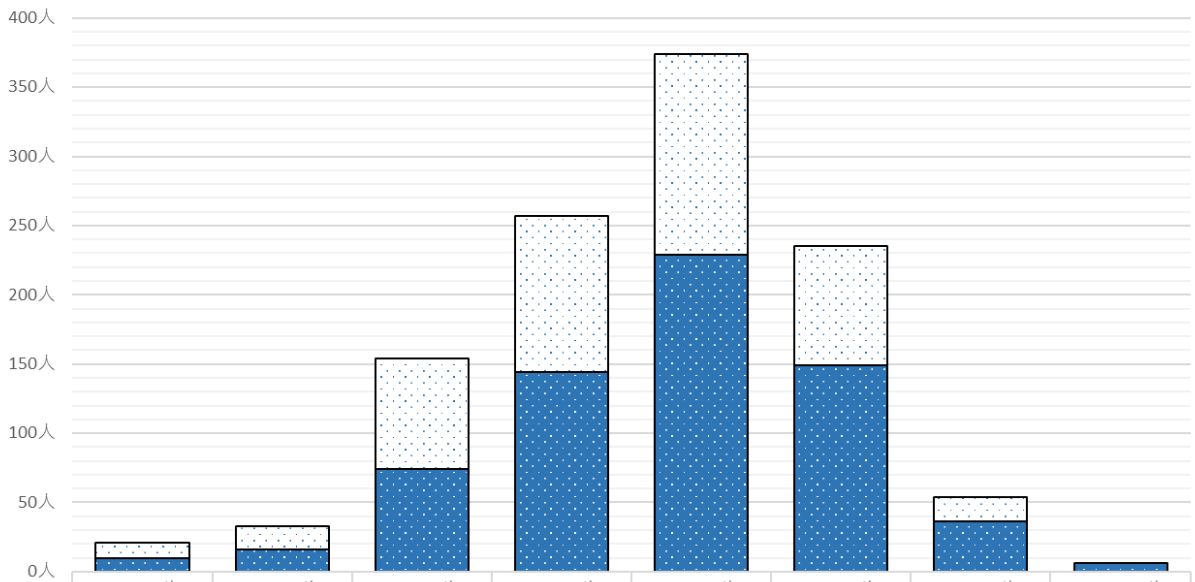
世帯別

図-4



年齢階層別・性別　訪問支援対象者数

図-5



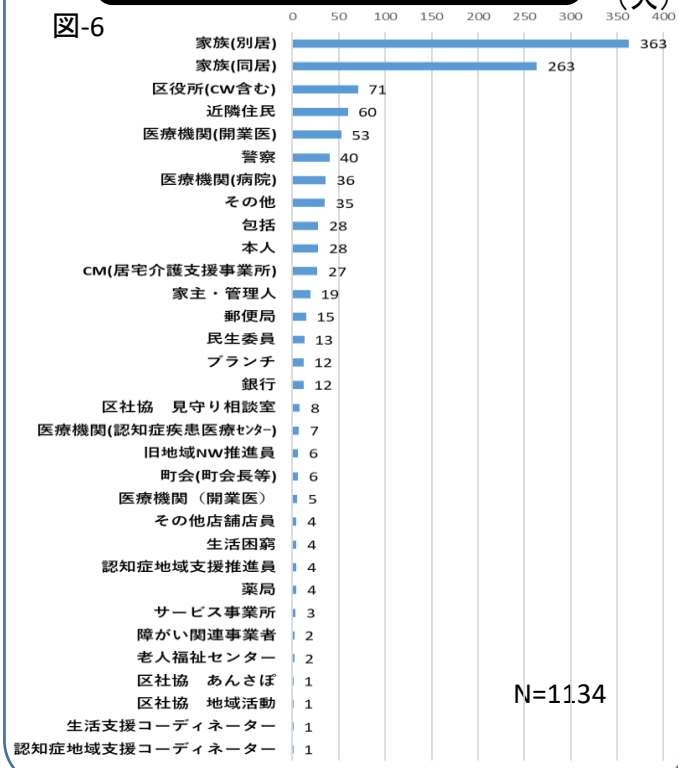
	40-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80-84歳	85-89歳	90-94歳	95-100歳
□男	11	17	80	113	145	86	18	0
■女	10	16	74	144	229	149	36	6

図-3　R3と比較して、男女比ほぼ変化無し（男2%増/女2%減）。
図-4　R3と比較して、独居が3%、配偶者と子と同居及びきょうだいと同居が1%増加し、夫婦のみの世帯が3%、子世帯と同居が1%減少している。
図-5　例年と同様80-84歳代が最も多くなっている。

4. 全市集計　相談経路・情報媒体
（令和4年4月1日～令和5年3月31日把握分　対象外を除く）

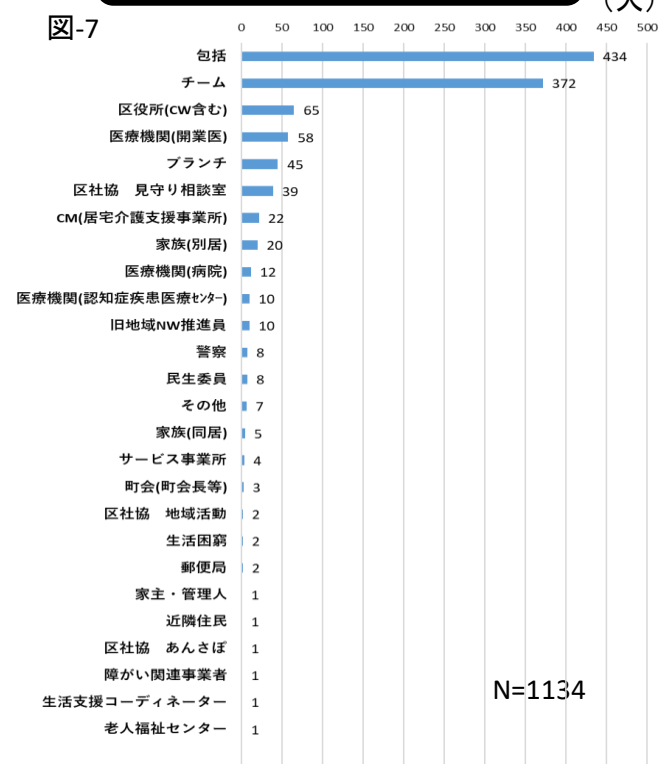
最初に気づいた人

図-6



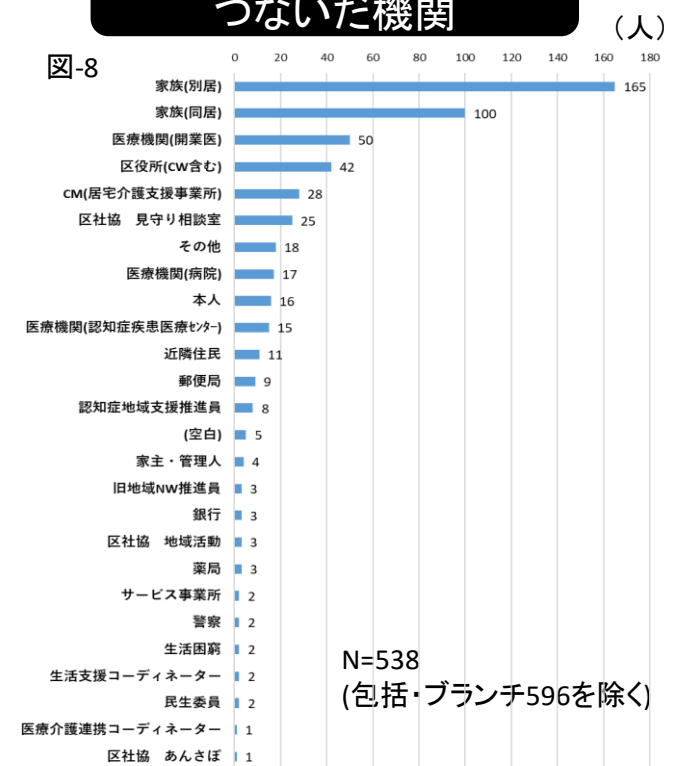
相談者が最初に連絡した機関

図-7



チームに直接つないだ機関

図-8



チームの情報を得た媒体

図-9

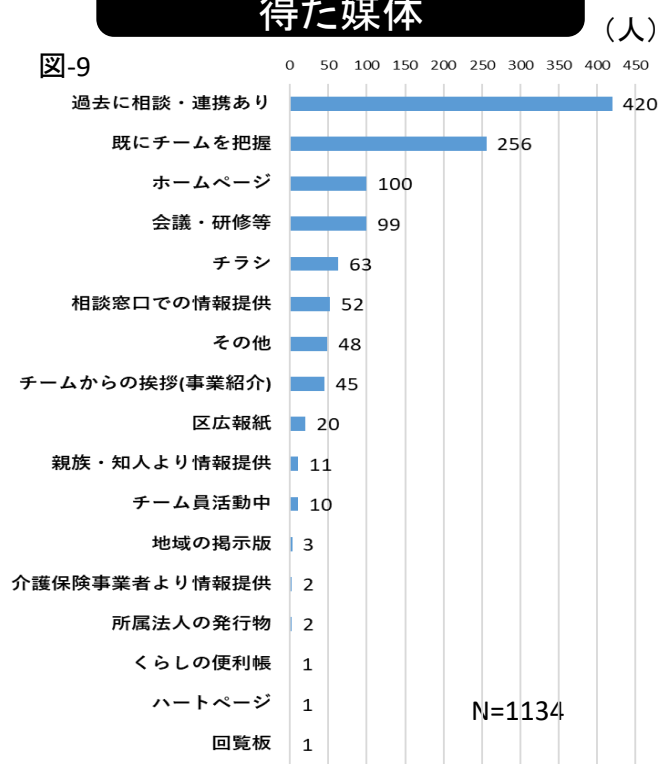
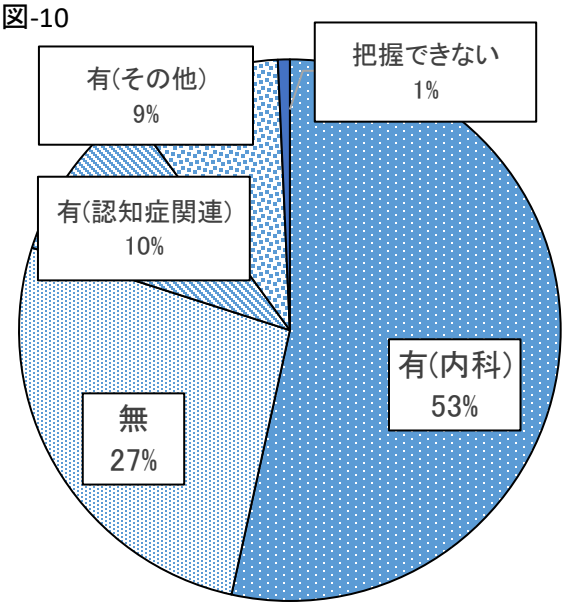


図-7　例年と同様に包括とチームで全体の7割を占めている。
図-8　R3は同居家族が1位だったが、R4は別居家族が上回った。

5. 全市集計　終了ケース分析 主治医・サービス・DASC
（令和4年4月1日～令和5年3月31日報告分　年度内終了ケース）　N=1129

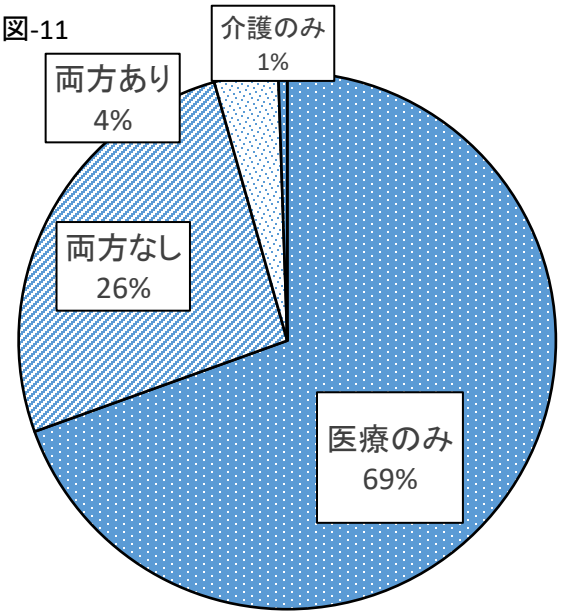
主治医の有無

図-10



介入時サービス

図-11



（介入時）アセスメント結果（DASC）
（合計点が31点以上の場合、「認知症」の可能性ありと判定）

図-12

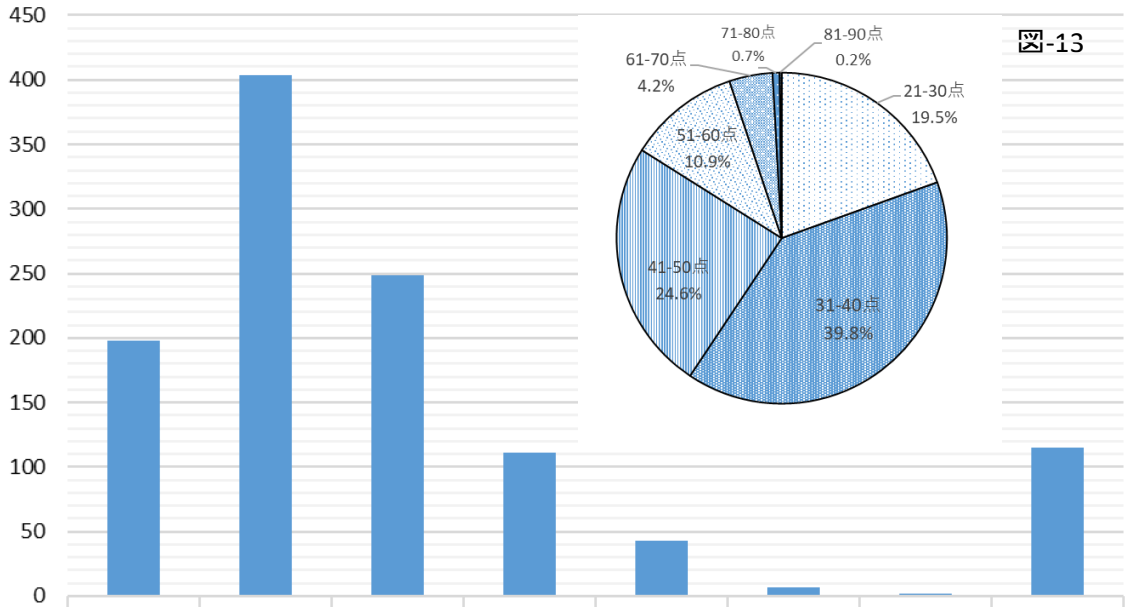


図-13

	21-30点	31-40点	41-50点	51-60点	61-70点	71-80点	81-90点	未記入
人数 (人)	198	404	249	111	43	7	2	115

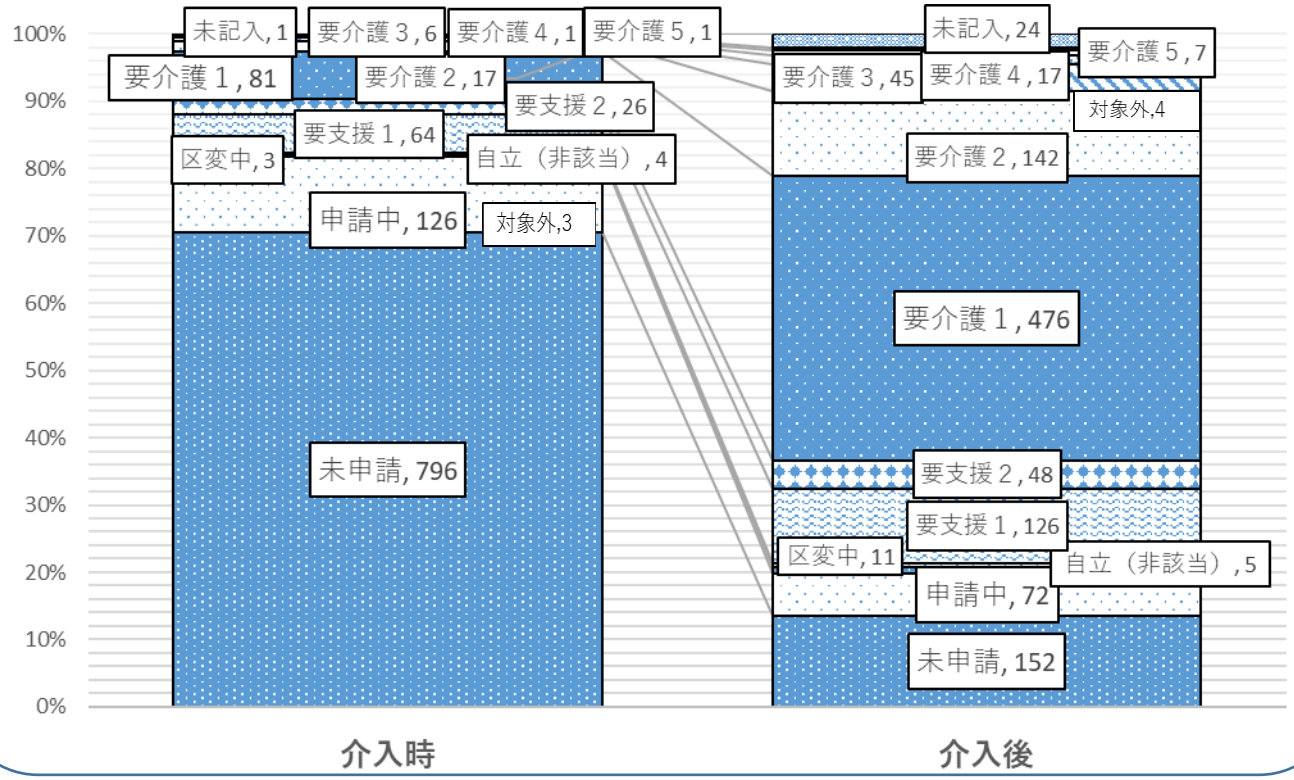
※図-13は「未記入」を除いたN=1014の割合。

図-10　R3と比較して内科主治医のあるケースが2%減少。
図-11　R3と比較して両方なしが1%増加し、両方ありが1%減少。
図-12　R3と同様に約1割が未記入となっている。

6. 全市集計　終了ケース分析　介護度・診断
（令和4年4月1日～令和5年3月31日報告分　年度内終了ケース）　N=1129

要介護度別　介入時・後

図-14



認知症の診断　介入時・後

図-15

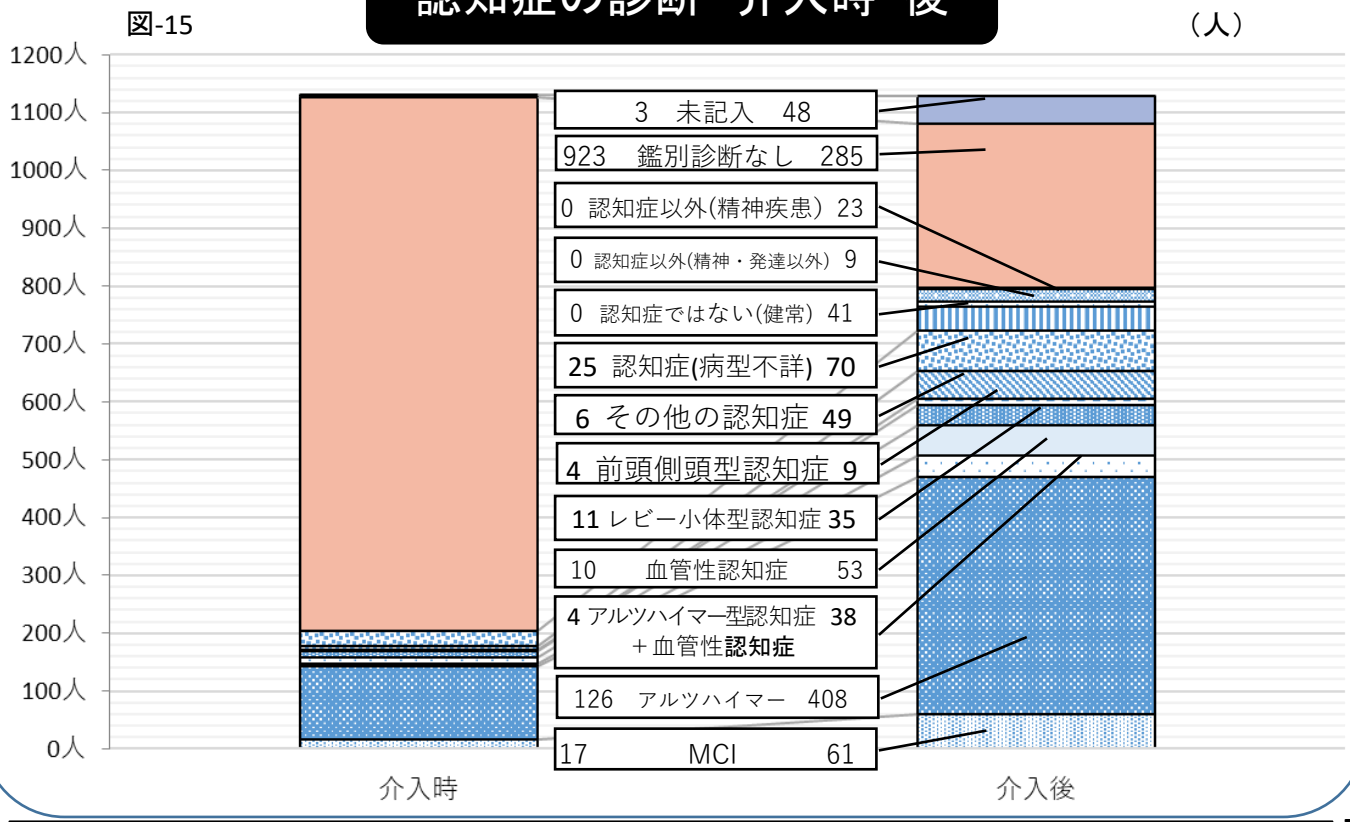
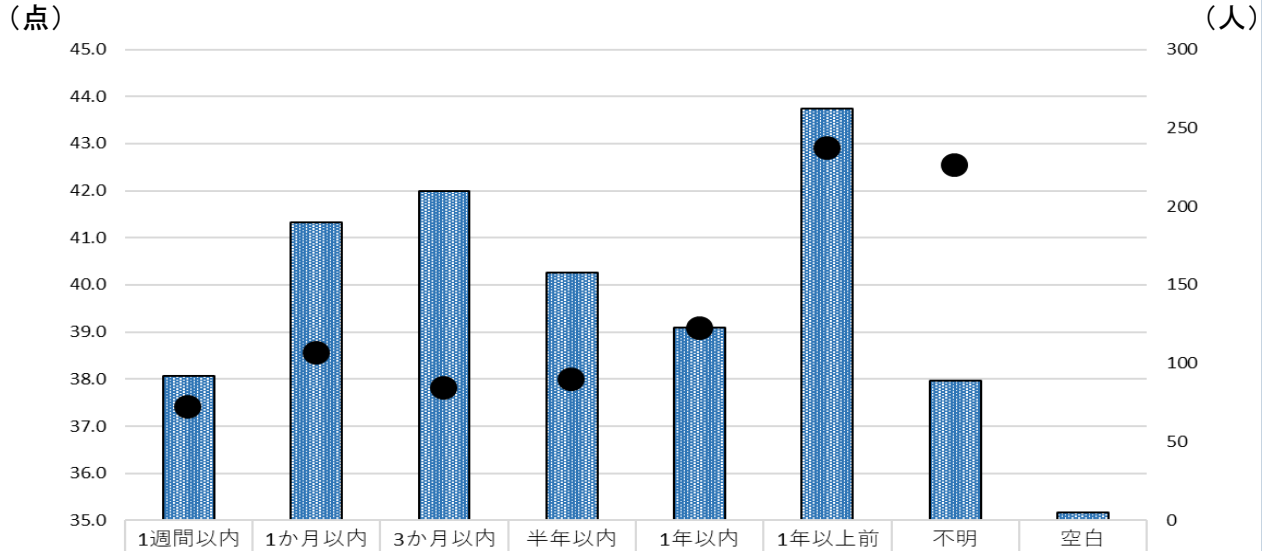


図-14　介護保険未申請者796人の80.9%が申請につながったが、R3の83.6%より2.7%減少している。
図-15　なんらかの診断につながった割合は70.5%でR3の70.3%より0.2%増加。

7. 全市集計　終了ケース分析　相談時期　支援の理解
（令和4年4月1日～令和5年3月31日報告分　年度内終了ケース）　N=1129

図-16

相談者が認知症を疑い始めた時期と介入時平均DASC



	1週間以内	1か月以内	3か月以内	半年以内	1年以内	1年以上前	不明	空白
■人数	92	190	210	158	123	262	89	5
●平均 / DASC	37.4	38.6	37.8	38.0	39.1	42.9	42.5	34.3

全体平均日数=107.5

支援必要性の理解と世帯別平均支援日数

図-17　介入時　支援必要性の理解（本人）

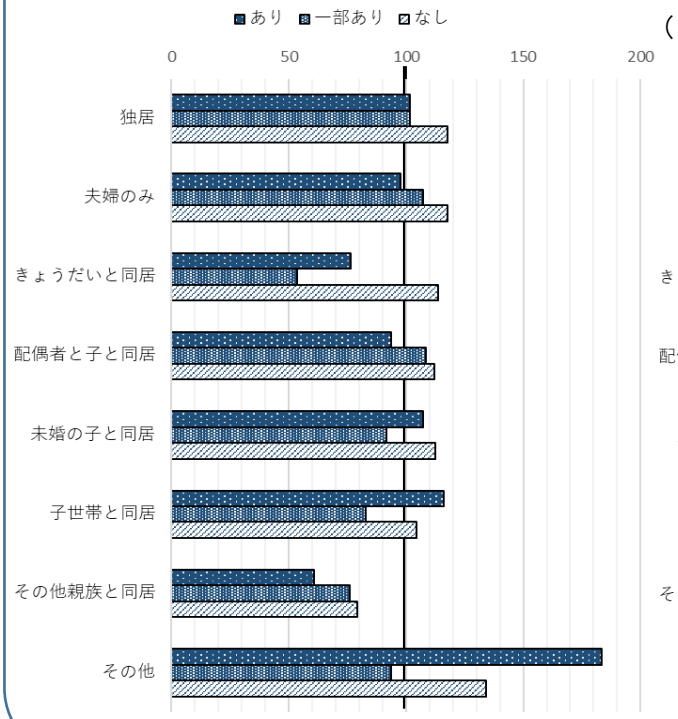
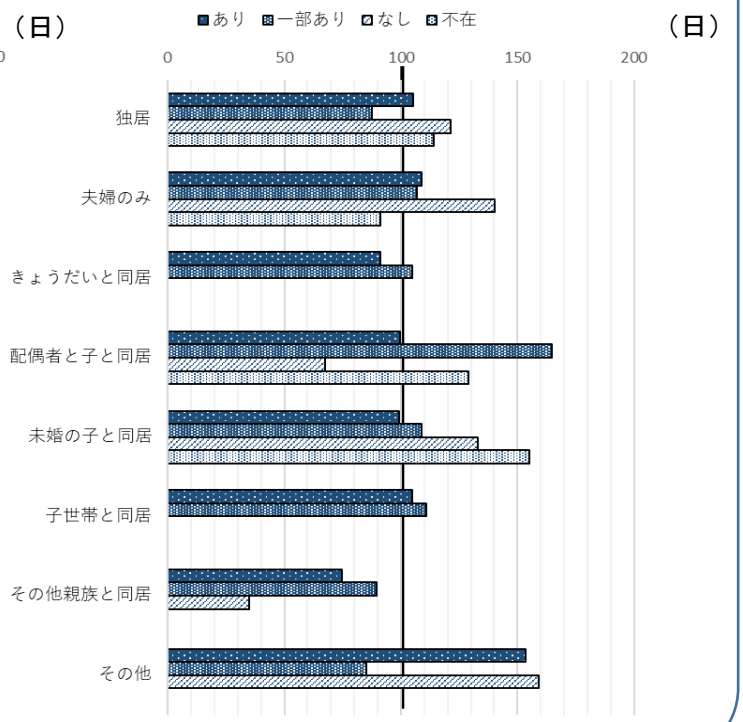


図-18　介入時　支援必要性の理解（家族等）



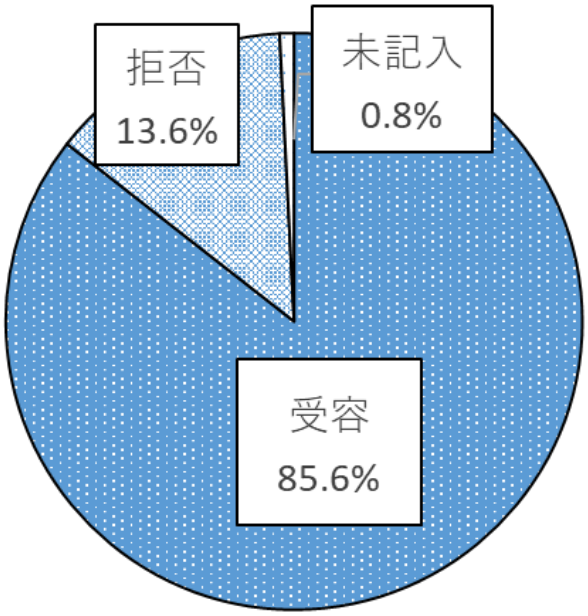
※　その他の世帯：内縁、知人・友人などを含む

図-16　R3と同様に、1年前以上の気づきが最も多く(23.2%)、1年以上前の気づきは平均DASCも高いため、引き続き早期対応を進めることが重要であると考えられる。
図-17　一部例外はみられるが、全体的に本人に理解がないケースの方が長期化する傾向にある。

8. 全市集計　終了ケース分析　拒否の有無　終了後
（令和4年4月1日～令和5年3月31日報告分　年度内終了ケース）　N=1129

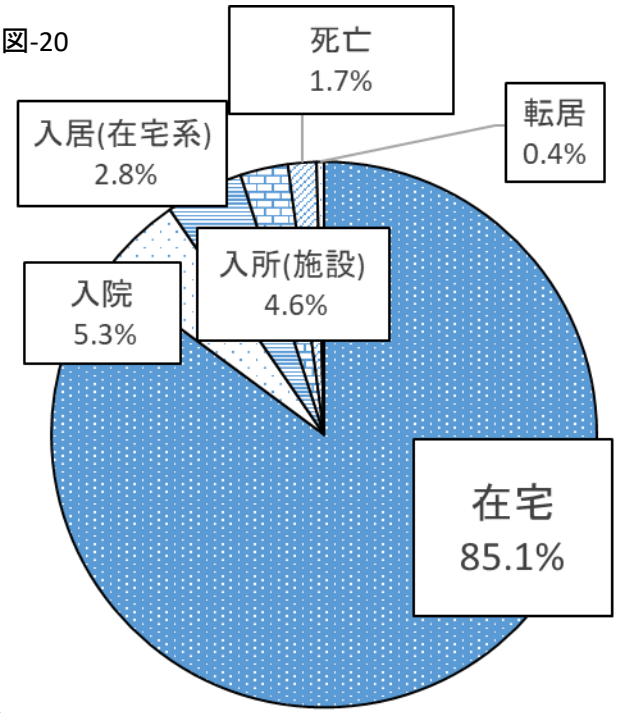
チーム員の関わり方に対する姿勢（本人）

図-19



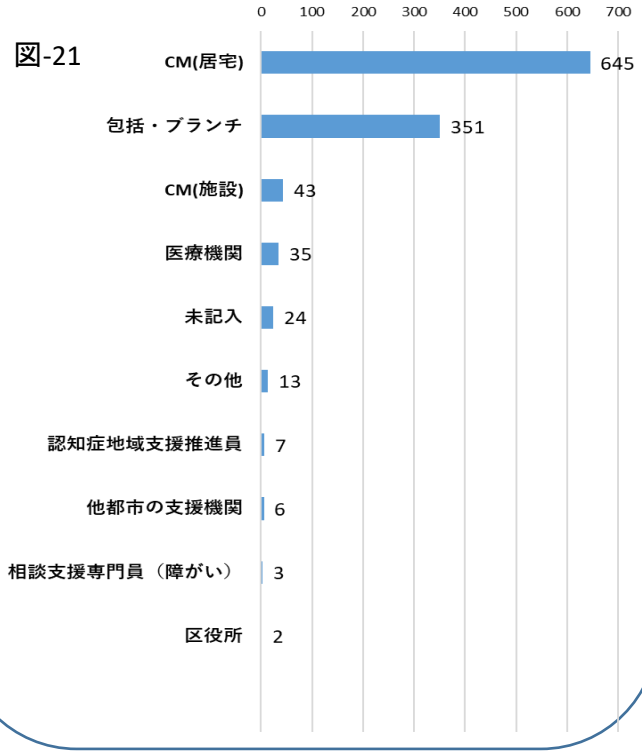
支援終了後の生活場所

図-20



支援終了後の主な引き継ぎ先

図-21



引き継ぎ先が包括の理由

図-22

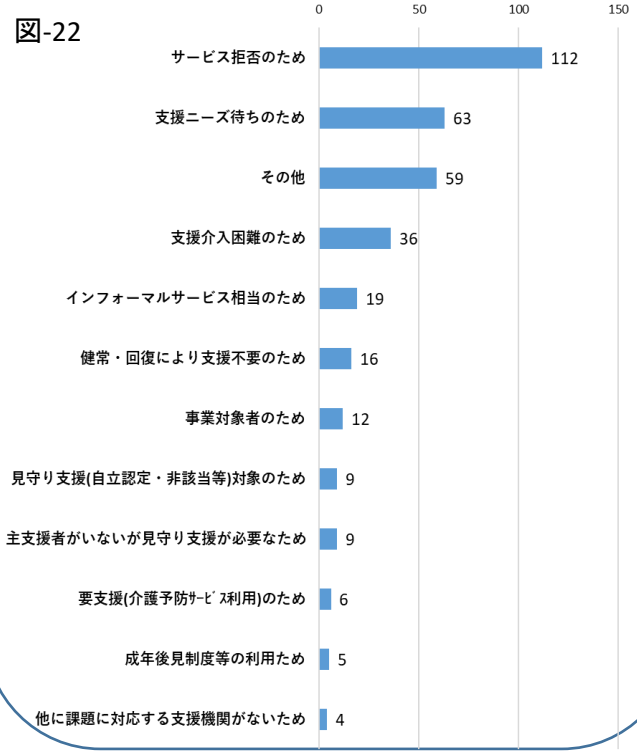


図-19～図-22　前年とほぼ変化無し。
図-20　在宅はR3同様に高い割合を維持している。